

豊かな自然

北の又集落

南秋田郡内で最も高い山である馬場目岳（標高一、〇三七m）には、ブナ原生林があり、その汚れない森がつくりだす澄んだ空気は、森林浴やハイキング、登山に格好の環境です。

勇壮な三階の滝、臼内溪谷、仙人峡やデロ杉流域などとても美しい景観があります。特に目を引くのは、大きな岩の上にブナや杉などの巨木がそびえ立つ、通称ネコバリ岩です。

また、馬場目岳の麓には、茅葺き屋根の集落北の又があります。蛇喰には古民家を利用した盆城庵があり、昔話の世界にタイムスリップしてしまったかのようなたたずまいです。

町のシンボル森山は標高三二五メートルの小さな山ですが、それだけに誰もが気軽に登ることができ、身近な自然を楽しむことができます。頂上には希望の鐘があり、そこからは湖東平野や大潟村が一望でき、さらに男鹿三山と日本海、秋田市方面、能代方面が遠望でき、晴れた日には、北には白神の山々、東の森吉山、南には太平山、鳥海山が展望できます。



ネコバリ岩



三階の滝



町のシンボル森山



デロ杉流域



朝市

五百年の伝統
旬の彩



西暦一四九五年、このころ町村に馬場目の地頭・安東季宗が斎藤弥七郎に命じて「市神」をまつらせ、市が始まったと伝えられております。その後、馬場目城が滅び、藤原内記秀盛が地頭として一円を治め、山よりの町村から谷口の砂沢城下、五十目に市が移され、物と人がさらに集まり発展します。

江戸時代は、久保田と能代や檜山の間、そして阿仁鉾山への物資補給の基地として栄え、さまざまな職人が集まり、農作業や生活に必要なものがそろっていました。五城目「市」は、戦後六斎市から、二・五・七・〇の付く日に行われる十二斎市になりました。時代が変わっても市は、人々との生活と密着していたから、今日も繁栄し続けています。

豊かな自然の恵みから、包丁や桶、ザル、衣類などの生活用品まで。

正月の初売りに始まり、福寿草の苗やフキノトウが春の息吹を伝えると、新緑と共にワラビ、ゼンマイなど多彩な山菜が並び、五月は祭市。そこには色鮮やかな野菜が加わり始めて、八月は盆市。夏が過ぎて、栗やキノコが顔を出し、大根や白菜など漬物の素材が増えるにつれて冬へ。そして、正月用品の買い出しで大変なにぎわいとなる歳の市。そのほか、イベントとして、五月春まつり、六月市神祭、十月秋まつり、二月冬まつりを開催しています。朝市は、春夏秋冬の旬の彩をあざやかに放ち、訪れる人々の心を和ませます。

▼町村町内にある
「朝市発祥の地」記念碑



神田まつり



神田古本まつり



江戸天下祭り

昭和六十年以来から交流友好関係を深めてきた両自治体は、平成元年十月姉妹都市提携を結び、以来行政の交流はもろんのこと、子どもから大人のスポーツ交流、町内会・福祉・消防防災など、年々その輪を広げ交流は深まっています。

平成十九年四月十七日に千代田区の新庁舎一階区民ホールに、総重量九百キログラムの重厚な風格を持つ漆塗り仕上げの櫓テーブルを寄贈しました。

また、首都圏に住む五城目町出身者で結成された「ふるさと五城目会」は、会員相互の親睦を図りながら、千代田区や五城目町の行事に参加したり、会報を発行したりと積極的な活動をつづけ、姉妹都市提携の架け橋的存在となっています。

千代田区は東京二十三区のほぼ中心に位置し、面積は十一・六四平方キロメートル。

千代田区と姉妹の縁を結ぶことにより、互いの個性的な特性を活かしながら住民どうしが親しく交流し、また非常時や緊急時には協力し、助け合いながら、相互の発展に努めていきます。

〔写真提供：千代田区広報広聴課〕

千代田区

姉妹都市 東京都



千代田区新庁舎



町から寄贈したケヤキテーブル（平成19年4月17日）



千鳥ヶ淵の桜

職人のまち 五城目

家具・桶樽

五城目の山々は、秋田杉の美林に富んでいます。豊富な木材資源により古くから木工品や家具づくりが発達しました。素材の魅力を多彩に生かした木工品は、木工技術の高さを感じさせる逸品です。また、秋田杉や樺を使った五城目筆筒は全国にその名を知られております。



刃物

五百年余りの伝統をもつ五城目鍛冶の刃物は抜群の切れ味があります。生活に密着した道具として「一生ものの刃物」をめざす職人の心意気が、一本一本に打ち込まれているのです。



陶器

かつては瀬戸座があったという歴史と現代的な陶芸が育っています。

いまの暮らしに合う自然素材を生かした「土の温もり」と「使い易さ」を感じる『器』を焼き上げます。



御矢

五城目の矢は、東北でただ一家の伊達藩正統の御矢師の手から成る逸品です。

矢の神髄を極める御矢師の誇りと技により完成される矢は、正射必中の醍醐味を味わえる正確性をもち、同時に、眺めているだけで的を射抜く音が聞こえてきそうで、凜とした美しさも備えあわせています。

だまこ鍋

新米の季節になると、必ず作るのがだまこもちです。お手玉（だまこ）のようにまるめたご飯をキリタンゴ同様の鍋料理にして食べます。

五城目のおふくろの味です。



五城目銘菓

五城目のお菓子といえば朝市でも人気の「おやき」があります。その他に昔ながらの味を信条とする「げんこつ」「かりんとう」など味も香りも素朴な手づくりです。また、新しい町の魅力を表現した「五城目城」や「五城目天翔太鼓」などの職人技を活かしたお菓子も多彩です。



銘酒

良い水とおいしい米、名水あるところに銘酒ありのことばどおり、おいしいお酒がつくられています。杜氏の手から手へと、その秘伝と心意気を受け継いできている老舗の造り酒屋「福祿寿」があります。

福祿寿は、三百年の歴史があり、恵まれた地下水が柔らかさを加えている酒質は頑なに守られています。



町民主体の新しい自治

地域の『思い』を実現するために、まずは、できることから

町長への手紙

町民の皆様から建設的な意見や提案をいただき、町政に反映させることにより、住民参加のまちづくりを推進しています。

協働のまちづくり

これからは地域の課題解決や暮らしやすいまちづくりを進めていくために、町民の皆様と行政が、一緒に考え、一緒に汗を流して、互いに協力し合い、同じ目的を持って取り組む必要があります。

地域の課題解決やまちづくりは、町民の皆様が主体的に考え、実践し、これを行政が支援していくといったパートナーシップを重視した「協働」の新しい関係を築き、新しいまちづくりを進めています。





みんなで歩もう

新世紀をともに前進



五城目町長
渡邊 彦兵衛

二十一世紀に入り、わが国は社会経済・環境等の各分野において様々な変化の波が起こっております。本町におきましても時代の潮流にあつて、平成の大合併における単独立町と三位一体改革による行政改革の推進、加えて時代の変革とともに多種、多様化する行政へのニーズにすばやく、的確に対応するため組織・機構の見直しや町政座談会や地域を語る会の開催など町民参加の開かれた行政の推進、更には町民と行政が対等な立場でパートナーとして協力しながらまちづくりを進める協働のまちづくり事業の推進など各種施策をもとに、多くの課題に対処し先人の築かれた素晴らしい伝統と文化、山紫水明の麗しき郷土を誇りとし、個性ある郷土を共に築いて参りたいと存じます。

議会をはじめ、町民の皆様のご理解とご協力を得ながら、新世紀をともに更なる前進をして参りたいと存じますので、今後とも力強いご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

町民が主人公——町議会

町議会は町政方針や予算、条例など町の重要な事項を審議し、決定する機関です。町民を代表する議員が、みなさんの声を町政に反映させるために、熱心に活動しています。

今日のようにめまぐるしく変革がすすむ社会情勢のもとでは、町の施策推進に大変な困難がともないます。この難局をのりこえて町民によるまちづくりを進めていくために、議会と行政がともに一致協力して明日へ向かうことが大切です。町議会では町民との相互理解を深めるために、広報、公聴活動に力を注ぎ、町民とともに明日をめざす町政を実践しています。



副議長 佐藤 重信



議長 小林 正志





超高齢社会に向けた福祉環境の形成

心やすらぎ、健やかに暮らせる

今後さらに増大、多様化が予想される福祉ニーズに効果的かつ効率的に対応するため、介護保険制度、後期高齢者医療制度の適正な運営とそれにとりまなうサービスの質的向上や安全安心で快適な生活環境の整備を進めながら、総合的な心のかような福祉対策を推進します。

笑顔で活動できる健康長寿

町民の健康保持・増進を図るため地域保健活動、健康づくり事業など総合的に推進していきます。

複雑多様化する医療需要に対応するため、関係医療機関等との連携体制強化を図り、地域医療確保に努めます。

自立した高齢者が地域社会の中で、自らの知識と経験を生かして積極的な役割を果たしていけるような高齢社会の形成など、心の健康増進を支援します。





子どもの特性を伸ばした人間形成

子育ての夢を育む

地域で子育てを支援する意識の醸成と体制の確立や、多様化する保育需用に対応できるサービスの充実や施設の整備など、安心して子どもを産み、育てていくことができる環境づくりを推進していきます。

生きる力を育む学校教育

学校教育においては、自ら学ぶ意欲と思いやりの心を持ち、目標に向かって努力し、たくましく生き抜く児童生徒の育成をめざしており、児童生徒一人ひとりの個性を伸ばすことや、基礎学力の確実な定着を図っています。

また、「ふるさと教育」や体験学習をとおして、郷土の自然・歴史・文化を学ぶとともに国際理解、情報活用能力の向上、福祉の心の養成に努めています。

幼児教育においても、豊かな心と郷土を愛する心を培い、「生きる力」の育成を目指しています。

学校の経営においては、学校評議員制度を活用するなど、学校、保護者、地域社会が協力、連携しあう「開かれた学校」を実践しています。

町には、県立五城目高等学校があり、文武両道にわたる高校教育の振興を支援しています。

生きがいを育む生涯学習

心豊かな文化の香り高い町民性を培い、国際化や情報化に対応するための学習や交流の機会をひろげていきます。特に、町民全員が参加する生涯学習、「五城目人」をめざして、生涯にわたって学習できる場と機会の提供を図ります。





高速交通網を生かした町の活性化を

活力ある農林業

農家が将来展望をもち、意欲的に経営改善に取り組んでいけるよう、生産性の高い稲作と、高品質で「安心・安全」な農産物の生産をめざし、健康な土づくりによる五城目型農業のブランド化、販売体制の整備を図り、農業所得の向上と担い手の確保・育成を図ります。

林業は、施業の共同化や施設の整備、林業従事者の育成と確保に努めながら多様なニーズに対応して「持続可能な森林経営」を推進します。

また、農業・林業の体験を通して人々が交流できる環境を整備し、活力ある農林業と明るい農山村をめざします。

個性あふれる商工業

中心市街地に賑わいをもたらすまちづくりをめざして、中心市街地活性化事業を推進し、地域が一体となった商店街の形成や消費者の多様なニーズに対応した魅力ある商業活動を支援します。

町の個性ある伝統産業を守り育てるための後継者の育成支援、若者の定住促進を図るための企業誘致への条件整備、既存企業の技術の高度化や経営基盤の強化への支援を図ります。

新たな観光への取り組みと朝市を核とした観光拠点づくりを進め、町内観光ルートとの総合的な形成を図りながら個性ある観光サービス活動への支援を図ります。

悠紀の里五城目へ

天皇・皇后両陛下ご来町

平成二年の大嘗祭における献上米を奉納する「悠紀斎田抜き穂の儀」が行われたゆかりある地に平成十九年九月三十日、天皇・皇后両陛下がご来町されました。



平成2年9月28日
「悠紀の斎田抜き穂の儀」





生活環境の改善による快適な暮らし

本町の交通体系は、日本海沿岸東北自動車道五城目八郎潟ICをはじめ国道285号線を主軸とし、国道7号線、主要地方道秋田八郎潟線、能代五城目線と各地域を結ぶ幹線道路により形成されています。また、町を流れる水辺の修景やいこいの道づくりとして「戸村堰緑道」や木の町としてイメージアップを図る「ウッドロード」などを維持管理、快適な環境づくりを推進しています。

快適な住環境は、住む人の心をなごませ、町への愛着と定住への大きな力となります。道路や側溝、公園、上下水道などの整備を進めています。

特に下水道は、都市的機能を確保する上で欠くことのできない施設であり、汚水の排除・トイレの水洗化などの生活環境の改善だけではなく、河川などの水質保全の意味でも重要な施設であり、地域性を考慮しながら公共下水道事業、農業集落排水事業、合併処理浄化槽設置事業を組み合わせる計画的に整備を進めています。



一般国道285号線沿いに位置し緑に囲まれた旅のふれあいスポットになっています。施設には、地元産の山菜・野菜等の直売所や、レストラン、地域特産物の販売などがあり、地域産業と観光が一体となった交流拠点となっています。また、自然観察園と隣接しており、四季の花々や木々の色合いを観察できます。	町を見おろす前平山(98m)があります。中世末、砂沢城があった場所です。常設展示として木材産業の道具や当時の写真が展示されているほか、林業とのつながりが深い鍛冶や桶樽などに関連した展示があります。また、四季を通じて特別展示も行われています。4階からは、朝市通りを中心に形成された町並みが展望できます。	校の名所・雀館公園には、広域五城目体育館や相撲場、テニスコート、観覧席やベンチを備えた多目的グラウンド、一年中泳ぐことのできる屋内温水プール、芝生広場、弓道場、日本庭園などさまざまなスポーツを楽しめる施設が集まっています。	銅板葺き、鉄筋コンクリート地下1階(一部)地上4階、延べ床面積8,056㎡。国道285号線と県道秋田八郎潟線の交差点に面し、人目を引く外観からも町の表玄関にふさわしい建物とも言われています。
道の駅五城目 (悠紀の国五城目)	森林資料館 (五城目城)	雀館運動公園	五城目町役場
五城目町 施設ガイド			
陶芸七宝焼きなど地域の特性を活かした生涯学習の場として、広く活用されています。	高齢者等活動・生活支援機械施設で地区の生涯学習の場として活用されています。	野鳥の森を拡張・整備した「環境と文化のむら」には自然を満喫できる散策コースがあり、自然観察指導員から野外観察会など自然との上手な付き合い方を学ぶことができます。「文化の館」には、町の遺跡から出土した遺物を展示しています。縄文時代の漆工技術に関連する漆塗りの弓・櫛・土器などのほか漆精製に使った編布(あんぎん)など考古学に貴重な資料があります。また、出土した土器に触れることもできます。	県道秋田八郎潟線を行くと蛇喰地区に古民家を利用した宿泊施設盆城庵があります。映画「イタズ」のロケ地ともなり、自然を満喫できる所です。隣りには研修施設として北の又自然館(旧杉沢小学校北の又分校)があります。
富津内地区公民館	馬川交流センター	環境と文化のむら・文化の館	盆城庵・北ノ又自然館
地域の公民館施設として、地域住民に活用されています。	高齢者活動センターと基幹集落センターが合体した施設で、地区の生涯学習の場として、活用されています。	地域づくりの拠点として、広く生涯学習の場として活用されています。	森山の山麓に位置し、町民の語らいの場、地域住民の生涯学習の拠点として活用されています。
大川農村環境改善センター	総合生きがいセンター	馬場目ふれあいセンター	森山地区公民館

温泉三昧



湯の越の宿

湧き出る温泉は摂氏45.7度で、県中央部では数少ない本格イオウ温泉です。毎分250リットルと豊富に湧き出ているので、「流れ湯形式」をとり、常に清潔な温泉を保っています。

赤倉山荘

一度入浴すれば肌が見違えるように若返るアルカリ性冷鉱泉のツルツルした泉質は、秋田美人を育てる場として評判です。



小倉温泉

緑の高台の上にある小倉温泉。静かな環境の中での温泉は身体も心も洗われる感じです。



アートギャラリー

町内外からの芸術の展示発表ができるミニ美術館です。



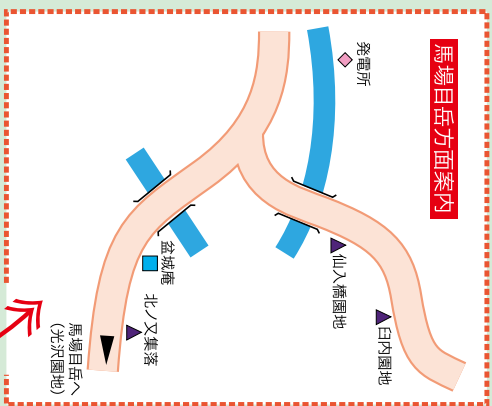
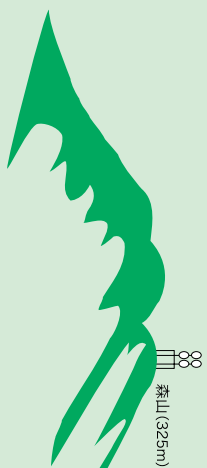
矢田津世子文学記念室

昭和初期に活躍した五城目町出身の作家。昭和11年「神楽坂」が第3回芥川賞候補となり、数々の名作を発表している。記念室には、津世子の執筆原稿や、写真、愛用品(着物など)、有名作家へ宛てた手紙などが展示されています。



五城館

五城館は、世代を超えて人々がふれあい、そして語り合う生活文化施設で、昭和初期に建てられた土蔵づくりの農業倉庫を改装して建てられた、総合交流センターです。



観光ガイドブック